

この「通信」は、11月25日に行われた「鹿折まちづくり協議会 土地区画整理事業についての懇談会」の内容を、鹿折地区に住む住民の方々や被災して、地元を離れて暮らす方々に知っていただくため、発行しています。

「鹿折まちづくり協議会 土地区画整理事業についての懇談会」の概要

■日時 2012年11月25日(日)
13時30分～16時00分

■参加者 32名
気仙沼市長、市議会議員2名
(鹿折まちづくり協議会役員15名)
(アドバイザー4名)
(オブザーバー10名)

■場所 鹿折公民館(鹿折小学校)

■主催 鹿折まちづくり協議会

2012年11月25日に鹿折まちづくり協議会の土地区画整理事業についての懇談会が鹿折公民館で開催されました。

はじめに、鹿折まちづくり協議会会長の鈴木博氏から開会の挨拶が行われました。

そのあと、気仙沼市役所都市計画課の職員の方から鹿折地区の復興計画について説明が行われました。説明の内容は鹿折地区の土地区画整理事業に関して、現在、土地区画整理事業がどこまで進んでいるのか説明がありました。市役所からの説明のあと、相談役の小野寺優一氏(鹿折公民館長)から今後の鹿折のまちづくりを考えるにあたっての課題と提案が挙げられました。会の途中から、気仙沼市長の菅原茂氏も懇談会に参加し、現在の鹿折地区で進んでいる水産加工集積地の状況報告や土地区画整理事業の報告、共徳丸の今後の扱いについて説明がされました。

協議会での話し合いでは、「土地区画整理事業について」や「かもめ通り商店街の方向性について」、「共徳丸に対しての考えや今後の方針」に関する意見が多く出されました。また、協議会役員の方々の意見に対して、まちづくり協議会のアドバイザーとも意見交換を行いながら、「どのように鹿折のまちづくりを議論していくことが良いのか」や「将来のまちに対しての方向性やイメージ」について話し合いました。

最後に副会長の佐藤良治氏から締めの挨拶を行って頂き、鹿折まちづくり協議会の懇談会は閉会となりました。

＊当日の概要・プログラム＊

1 開会・挨拶

2 市長挨拶

3 出席者の紹介

4 議題・話し合い

〈1〉鹿折土地区画整理事業についての説明

〈2〉今後の対応について

〈3〉その他

5 閉会挨拶



土地区画整理事業の状況

鹿折地区において、市民の生命及び財産を守る安全で利便性の高い住宅地の建設及び産業の再生を図るため、盛土嵩上げゾーンと低地ゾーンを設ける。

- ・盛り土嵩上げゾーン・・・T.P+3.0～5.5mの盛土
- ・低地ゾーン・・・・・・・・・・T.P+1.8mの高さを基本とした盛土

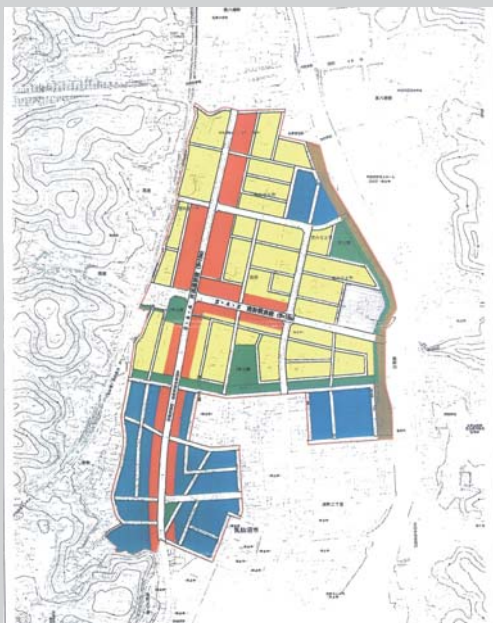
進捗状況

- 都市計画決定（平成24年9月4日：気仙沼市都市計画審議会）
- 大臣同意（平成24年9月10日：気仙沼市復興整備協議会）

今後の予定

現在、事業計画案策定中。2013年1月に地元への説明会を実施予定。3月には事業認可（計画決定）される予定。25年度の秋には土地区画整理の工事を開始する予定。以下の土地利用計画図と道路計画等設計図は、現在検討されている計画図です。

鹿折地区被災市街地復興土地区画整理事業
【土地利用計画図】

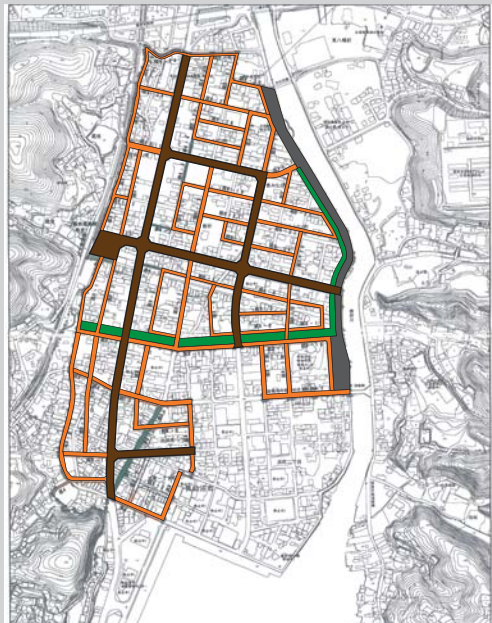


2012年9月時点案

凡例

	住宅系土地利用
	商業系土地利用
	工業系土地利用
	公園・緑地
	堤防
	公共公益施設

鹿折地区被災市街地復興土地区画整理事業
【道路計画等設計図】



2012年8月31日時点案

凡例

	新設道路
	公園・緑地
	幹線道路
	堤防

上図で色塗りされているものは、土地区画整理事業により新しく計画される道路です。

鹿折まちづくり協議会役員の方々とアドバイザーによる話し合いの中で挙げた意見を以下にまとめました。「土地区画整理事業について」や「かもめ通り商店街の方向性について」、「今後の共徳丸に対して」の大きく3つの意見が挙がりました。

〈土地区画整理事業についての意見〉

- ・現在の復興計画が進むと昔のまちに比べて大きくまち並みが変わるのでは？（震災前は縦軸でまちが構成されていたが、復興計画では横軸がメインになっている。）
→事業認可に向けて、検討した結果、現在の計画案となった。
事業方針を年内までに決める必要がある。
- ・土地区画整理区域の北側に避難路を計画してほしい。
すぐ高台に避難できるような道路も計画に取り入れてもらいたい。

〈かもめ通り商店街の方向性についての意見〉

- ・今後、かもめ通り商店街をどのように、まとめていったらいいのか分からない。
→市役所としてはそれぞれの商店がどうしたいのか教えてもらいたい。
- ・浜商栄会を残すのか残さないのかの議論をすればいいのか？
- ・かもめ通り商店街も新しいカタチで再建・再開できるように計画を考えたい。

〈今後の共徳丸に対しての意見〉

- ・船主は計画が決まらないのであれば、解体を希望している。
- ・船を残すのであれば、国の予算（復興交付金の公園整備事業）でやるしかない。
- ・保存や住民への配慮のため上屋（船を覆う）をかけて残す方法も考えている。
- ・住民の皆さまの合意があれば、保存していくことが可能になる。
- ・11月18日に西みなと町の住民で集まって懇談会を実施。その際、共徳丸について話し合い、残すか残さないかのアンケートもおこなった。
→50人にアンケートを行い、賛成が6%、反対が78%という結果だった。
- ・船の傍には住みたくないという住民の意見も多く聞いている。
- ・「船」のみを観光資源にしない方がよい。

協議会での話し合いを受けて、4人のアドバイザーの方々からも意見・提案が出されました。主に、「鹿折の商店街」「まち全体のイメージづくりと共有」、「若手世代の意見交換の場づくり」の大きく3つの意見が挙がりました。

〈鹿折の商店街の考え方・方向性〉

- ・ もともとあった商店街の今後どうするかを受けて、基本的に商店や施設は集積化した方がよい。
- ・ もともとのまちから考えるのか、一から新しいカタチとして考えるのかを協議会やかもめ通り商店街が方向性・共通認識を持っておくことが重要である。
- ・ 災害公営住宅と商店の関係も今後の計画の中で考えていく必要がある。

〈まち全体のイメージづくりと共有〉

- ・ 今の復興計画では具体的なイメージが湧きにくい。
 - ・ 今後、高齢化や低密度なまちになってしまい恐れがある。まちをコンパクトすることもひとつの案として考えられる。
- 鹿折にタウンセンター（商店街や公共施設、災害公営住宅など職住が近接した大きな施設）も計画として考えられる。
- ・ 道路計画について、通過交通が多く車社会のまちになっている。人が歩いて暮らせるまちに配慮した計画を考えていくことが必要。

〈若手世代のまちづくりに対する意見交換の場〉

- ・ 現在、鹿折の若い世代が毎週集まって鹿折のまちづくりについて考えれる場ついている。
→ 鹿折まちづくり協議会の活動目的でもある「安心」「安全」「快適」「活力」「住みよい」の5つの視点で鹿折のまちづくりを考えている。
 - ・ 今後も継続して、若い世代が集まり、鹿折の将来のまちを考えていく仕組みづくりが必要。